



福幼ハ達天年子孫の如
 宜の程ハ達年也也の立
 宜ハ書讀の用也也
 良ハ多負ハ意比押定ハ
 の為少ハ多之を生いハ
 何事も自名と大石
 此の子姓カ道ハ書見
 与爾下生書遊カ上運
 幼童ハ爾下の法支也也
 仰ハ与ハ人カ来也也
 得ハ与ハ人カ来也也
 是帰也後此也也

得方身以少微之重
在帰正後此道窮
張在、得身未記之打
子、あは海つを往正
向君之弟先出之
三定身二一未發、不
可以之通尸來、先
小角自由身二のり事
身功三之改、一規五事の上
而何此九能令二事故
身の志身あ直正は
後身二成圓大

せりら、 加後

大隈伯爵

閣下

きよは海印の持し返すしはな
ゆるし道并達への徳を説く

有徳者之を来世に

無心は毎行のあり

徳を眼大なるは徳

昔親を多し海に

しりし王冠をよめる

以て道并達への徳の

不常の世情の中

少くの中を以て十年

寸の徳との所と徳

持る身を曲げれば

亦く徳の中を以て

今も奉承の事なく

印水もたもあつた

細く閑話の中

徳を承る事

海印の徳の心

海印の徳の心



此等之原

海陸の情思の融

解の爲に作らるる

の未だか

中を愛むる

中を愛むる

情の社を穿る

只を愛むる

是れを愛むる

情の社を穿る

只を愛むる

是れを愛むる

情の社を穿る

只を愛むる

是れを愛むる

情の社を穿る

只を愛むる

是れを愛むる

情の社を穿る



大隈

重信

下毅

東京市子福



和



力不致之

白龍港公所